

稚内高校

令和 8 年度シラバス

商業科 2 年

目次

- | | | |
|------------|--------------------|-------------------|
| 1. 言語文化 | 8. 保健 | 15. 財務会計Ⅰ |
| 2. 公共 | 9. 音楽Ⅱ | 16. 原価計算 |
| 3. 数学Ⅰ | 10. 美術Ⅱ | 17. ソフトウェア活用 |
| 4. 数学A | 11. 書道Ⅱ | 18. プログラミング |
| 5. ビジネスと数学 | 12. 英語コミュニケーションⅠ | 19. ビジネスコンピューティング |
| 6. 生物基礎 | 13. ビジネス・コミュニケーション | |
| 7. 体育 | 14. マーケティング | |

教 科		国語	科目	言語文化	年次	2	単位数	2	必修	
使用教科書		言語文化(大修館)								
使用副教材		なし								
科目の目標		国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
評価の算出		上記の趣旨を踏まえ、授業内における小テストや定期考査、休業明け課題確認テストを基に評価を算出する。			上記の趣旨を踏まえ、定期考査を基に評価を算出する。			上記の趣旨を踏まえ、レポートや発表を基に評価を算出する。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③	
前 期	4	2	・オリエンテーション				○	○	◎	授業での様子
		8	・古文入門 宇治拾遺物語「田舎の児～」 「児のそら寝」				◎	○	○	小テスト
	5	4	・徒然草				○	◎	○	小テスト、提出物
		8	・「羅生門」				○	◎	○	小テスト、提出物
	7	8	・伊勢物語「芥川」				◎	○	◎	小テスト、提出物
		8	前期期末考査							定期考査
9	8	・土佐日記				◎	○	○	小テスト、提出物	
後 期	10	6	・「青が消える (Losing Blue)」				○	◎	○	小テスト、提出物
		3	・漢文入門				◎	○	○	
	11	5	・漢文「故事」				◎	○	◎	提出物、授業での様子
		6	「セメント樽の中の手紙」							
	1	4	・短歌・俳句				○	◎	◎	発表
		4	・「良識派」				○	◎	○	提出物、授業での様子
	2	4	後期期末考査							定期考査
3	4	1年間のまとめ								
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
【現代文】 ・読めない漢字や意味のわからない語句を見つけたら、調べましょう。語彙力が向上します。電子辞書を持っている人は、必ず持参すること。 ・自分の考えを書き、交流する活動を行います。思考力や表現力が向上するので、真剣に取り組みましょう。 【古典（古文・漢文）】 ・教材に入る前は、ノートに本文を記入したり語句の意味を調べるなど、必ず予習しましょう。（やり方などは授業で説明します） 【その他】 ・定期的に漢字テストや古文単語テストを実施します。2年後には確実に定着させられるように、今からこつこつ取り組みましょう。 ・授業は、自分の考えや意見を表現する練習の場としてください。必ず、将来の進学や就職等で生きてきます。										

教科	公民	科目	公共	学年	2	単位数	2	必修
使用教科書	公共（701東京書籍）							
使用副教材	最新公共資料集（第一学習社） 公共ワークノート（東京書籍）							
科目の目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成を図る。							
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度	
評価の趣旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。また、現代の諸課題を示す諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に調べ、その情報をまとめている。			現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを表現したりしている。			よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。また、現代の諸課題について主体的に解決しようとする過程を振り返り、自己評価し、それを基に自らを改善しようとしている。	
評価の算出	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・提出物、授業での発言や取り組み 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容	①	②	③		
前 期	4	1	第1編 公共の扉（知識の習得）				授業の取り組み、定期考査	
		5	第1章 公共的な空間をつくる私たち	○	○	◎		
	5	6	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	○	○	◎		授業の取り組み、定期考査
		7	第3章 日本の平和主義と安全保障	○	○	◎		
	6	1	前期中間考査	◎	◎			授業の取り組み、定期考査
		7	4	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	○	○		
	8	4	第1章 法的な主体となる私たち（主題1～3）	○	○	◎		授業の取り組み、定期考査
			①法や規範の意義と役割 ②契約と消費者の権利 ③司法参加	○	○	◎		
	9	1	前期期末考査	◎	◎			授業の取り組み、定期考査
7				○	○	◎		
後 期	10	8	第2章 政治的な主体となる私たち（主題4～7）	○	○	◎	授業の取り組み、定期考査	
		11	④政治参加 ⑤国際社会 ⑥日本の安全保障 ⑦国際社会の変化	○	○	◎		
	11	7		○	○	◎	授業の取り組み、定期考査	
		1	後期中間考査	◎	◎			
	12	6	第3章 経済的な主体となる私たち（主題8～13）	○	○	◎	授業の取り組み、定期考査	
			⑧雇用と労働問題 ⑨社会の変化と職業観	○	○	◎		
	1	4	⑩市場経済の機能と限界	○	○	◎	授業の取り組み、定期考査	
		2	3	⑪金融のはたらき ⑫財政の役割と社会保障 ⑬経済のグローバル化	○	○		◎
	3	1	後期期末考査	◎	◎		授業の取り組み、定期考査	
3		4	第2編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち（探究活動）	◎	◎	◎		
合計		70	課題設定→仮説→情報の収集→探究→発表→まとめ→振り返り	◎	◎	◎	課題の取り組み	
学 習 方 法 ・ そ の 他								
○考査及び評価について（補足） ・上の「評価算出」で合算した点数を、考査の平均点を考慮し評価段階にあてはめて評価をします。 ・定期考査では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」の2観点を評価します。成績不振は30点未満です。 ○授業と学習方法 ・教科書とワーク、プリントを保管するためのファイルやノートの計3点を持ってきて下さい。 ・副教材の資料集は、家庭学習の応用や、テスト前の復習に活用してください。 ・授業のスタイルはプリント授業となっています。予習としては、授業内で指示された教科書のページ数を読みましょう。 ・常日頃から、ニュースに興味や関心をもち、新聞やテレビのニュースに目を通しておく習慣をつけておきましょう。								

教 科	数学	科目	数学Ⅰ（商業科）	年次	2	単位数	1	必修
使用教科書	新編 数学Ⅰ（第一学習社） 新編 数学Ⅰ サポートブック（第一学習社）							
使用副教材	スタディ数学Ⅰ（第一学習社）							
科目の目標	授業を通して知識や数学的な考え方を身につけ、問題演習を通して定着し、自分で問題を解くことができる。							
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度	
評価の趣旨	自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。	
評価の算出	上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。	
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②	
前 期	4	6	第3章 図形と計量	三角比	◎	○	◎	取り組み
				三角比の利用	◎	○	◎	取り組み
	5	6		鋭角の三角比の相互関係	○	◎	◎	取り組み
				三角比の拡張	○	◎	◎	取り組み
	6	8	前期中間考査		◎	◎	◎	定期考査、提出物
				正弦定理／余弦定理／三角形の面積	◎	○	◎	取り組み
	7	4		正弦定理と余弦定理の利用	○	◎	◎	取り組み
			第5章 データの分析	データの整理／代表値	◎	○	◎	取り組み
	8	4		データの散らばりと四分位数	◎	○	◎	取り組み
後 期				外れ値／データの散らばりと標準偏差	○	◎	◎	取り組み
	9	7	前期期末考査		◎	◎	◎	定期考査、提出物
				データの相関／仮説検定の考え方	◎	○	◎	取り組み
後 期	10							
	11							
	12							
	1							
	2							
	3							
合計		35						
学 習 方 法 ・ そ の 他								
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができたなら問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。								

教 科		数学	科目	数学A（商業科）	年次	2	単位数	1	必修	
使用教科書		よくわかる 新編数学A（第一学習社）								
使用副教材		新版 スタディ 数学A（第一学習社）								
科目の目標		授業を通して知識や数学的な考え方を身につけ、問題演習を通して定着し、自分で問題を解くことができる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。		
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③	
前 期	4									
	5									
	6									
	7									
	8									
9										
後 期	10	8	第1章 場合の数 集合／集合の要素の個数／数え上げの原則 順列／重複順列 円順列／組合せ／組合せの利用 後期中間考査 第2章 確率 事象と確率 確率の基本的な性質／余事象の確率 独立な試行の確率 反復試行の確率／条件つき確率 後期期末考査 期待値	◎	○	◎	取り組み			
				◎	○	◎	取り組み			
	11	9		○	◎	◎	取り組み			
	12	6		◎	◎	◎	定期考査、提出物			
				◎	○	◎	取り組み			
	1	4		◎	○	◎	取り組み			
				○	◎	◎	取り組み			
	2	4		○	◎	◎	取り組み			
3	4	◎	◎	◎	定期考査、提出物					
		◎	○	◎	取り組み					
合計		35								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。										

教 科		数学	科目	ビジネスと数学	年次	2	単位数	2	選択		
使用教科書		なし									
使用副教材		4プロセス 数学Ⅰ＋A（数研出版）									
科目の目標		数学Ⅰで学習した基礎的な概念や原理・法則を活かして、より高度な問題、生活を相互に関連付けた発展的なテーマや課題について、主体的に解決できる態度を育てるとともに、計算技能や問題解決能力の向上を図る。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。			
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、取り組み方や提出課題をもとに評価の算出を行う。			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	6	数と式（整式の計算、展開）				◎	○	◎	取り組み	
	5	6	数と式（因数分解、実数、平方根）				◎	○	◎	取り組み	
	6	8	前期中間考査				◎	◎	○	定期考査、提出物	
			集合と命題（不等式の計算、集合、命題）				◎	○	◎	取り組み	
	7	4	2次関数（2次関数のグラフ、平行移動、 最大値・最小値）				◎	○	◎	取り組み	
	8	4	2次関数（2次関数の決定）				◎	○	◎	取り組み	
後 期	9	8	前期期末考査				◎	◎	○	定期考査、提出物	
			2次関数（2次方程式、2次不等式）				◎	○	◎	取り組み	
	10	8	図形と計量（三角比、三角比の相互関係、 三角比の拡張）				◎	○	◎	取り組み	
	11	8	図形と計量（正弦定理・余弦定理、図形の計量）				◎	○	◎	取り組み	
	12	6	後期中間考査				◎	◎	○	定期考査、提出物	
			データの分析（代表値、データの散らばり）				◎	○	◎	取り組み	
	1	4	データの分析（散布図、相関係数、仮説検定）				◎	○	◎	取り組み	
2	4	後期期末考査 まとめの問題／課題研究				◎	◎	○	定期考査、提出物		
3	4	課題研究				◎	○	◎	取り組み		
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。											

教 科		理科	科目	生物基礎	年次	2	単位数	2	必修	
使用教科書		改訂版 生物基礎（数研出版）								
使用副教材		三訂版 リードLight生物基礎（数研出版）								
科目の目標		生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を見に付けている。			生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。			生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
評価の算出		定期考査・小テスト・提出課題・レポート課題			定期考査・小テスト・提出課題・レポート課題			授業参加・レポート課題・提出課題・小テスト		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	1	●オリエンテーション							
		5	●生物の特徴				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題
	5	3	【観察・実験】顕微鏡観察の基本操作、細胞の観察、酵素のはたらき				○	◎	◎	レポート課題
		3	●生物の特徴				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題
	6	1	《前期中間考査》				◎	◎		定期考査
		6	●遺伝子とその働き				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題
	7	1	【観察・実験】DNAの抽出				○	◎	◎	レポート課題
		4	●遺伝子とその働き				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題
	8	4	●神経系と内分泌系による調節				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題
	9	1	《前期期末考査》				◎	◎		定期考査
後 期	10	7	●免疫				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題
		1	【観察・実験】食作用の観察				○	◎	◎	レポート課題
	11	4	●免疫				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題
		3	●植生と遷移				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題
	12	1	《後期中間考査》				◎	◎		定期考査
		6	●植生と遷移				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題
	1	3	●生態系とその保全				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題
		1	【観察・実験】海洋生物の観察				○	◎	◎	レポート課題
	2	3	●生態系とその保全				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題
		1	《後期期末考査》				◎	◎		定期考査
3	3	●生態系とその保全				◎	◎	○	小テスト・提出課題・レポート課題	
	1	●まとめ				○	○	○	授業参加	
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方 ・毎回必ず教科書、ノート、タブレット端末を用意しましょう。また、忘れ物をした際には事前に申し出てください。 ・なぜ？どうして？という疑問を持ち、授業を通してその疑問を解決していきましょう。 ・わからないことはどんどん質問してください。 ◎家庭学習の仕方 －予習－ ・教科書に目を通してどんな内容を学ぶのかを把握するよう努めてください。 －復習－ ・教科書とノートを熟読して内容を定着させましょう。 ・問題集を解いて、授業を理解できているか確認し、間違えたところを重点的に学び直しましょう。 わたしたちはたくさんさんの生命に囲まれて生活しています。その奥深さを理解し面白さに触れていきましょう！										

教 科		保健体育	科目	体育	学年	2	単位数	2	必修	
使用教科書		なし								
使用副教材		なし								
科目の目標		運動の合理的・計画的な実践を通して知識を深めるとともに技能を高め、楽しさを深く味わうことができるようにする。 自己の体力向上及び健康の保持増進を図り、公正、協力、責任、参画、安全などに対する意欲を高める。 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		運動の考え方や技の名称、行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解できているか。 運動の特性や魅力に応じた楽しさを味わい、技能や動きなどを高めることができたか。			グループやチーム、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できているか。また、取り組みから得た知識・技能をまとめることができているか。			運動に主体的に取り組み、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしているか。		
評価の算出		A：技能、知識共に達成度が高い。 B：概ね達成することができた。 C：技能、知識共に達成度が低い。			A：話し合い活動や発表の様子が積極的である。資料の完成度が高い。 B：概ね、達成する事ができた。 C：話し合い活動の様子や発表、資料の完成度の水準が低い。			A：積極的に活動に参加し、役割以上に取り組むことができた。 B：活動に参加し、自己の役割を果たすことができた。 C：活動への参加が消極的であり、他人任せである。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③	
前 期	4	1	オリエンテーション【1】				○	○	○	小テスト 記録用紙 新体力テスト換算表 記録用紙 縄跳び換算表 記録用紙 長距離走タイム換算表
	5	1	体育理論【1】：①スポーツにおける技能と体力				○	○	○	
		2	集団行動【2】				○	○	○	
	6	9	新体力テスト【4】体づくり運動【5】：体ほぐし運動・縄跳び				○	○	○	
		3	陸上競技：長距離走【3】				○	○	○	
	7	16	選択【16】サッカー、バレーボール				○	○	○	
	8						○	○	○	
	9									
10	3	体育理論【3】 ②スポーツにおける技術と戦術 ③技術の上達過程と練習 ④効果的な動きのメカニズム				○	○	○	小テスト 記録用紙 種目確認・各種テスト 記録用紙 種目確認・各種テスト 小テスト 記録用紙 種目確認・各種テスト 記録用紙 種目確認・各種テスト	
						○	○	○		
						○	○	○		
11	11	カーリング授業【11】				○	○	○		
12	8	(男)武道【8】：柔道／(女)ダンス【8】：創作ダンス				○	○	○		
	2	体育理論【2】 ⑤運動やスポーツでの安全の確保				○	○	○		
1	8	器械運動（共通）マット運動、跳び箱【8】				○	○	○		
2	3	選択球技Ⅰ 卓球・バドミントン 【3】				○	○	○		
3	3	選択球技Ⅰ 卓球・バドミントン 【2】				○	○	○		
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方 - 指定ジャージ上下、ハーフパンツ、指定Tシャツは毎回準備して下さい。屋外で実施する場合は指定運動靴を使用して下さい。 ※屋外用指定運動靴には、使用前までに『名前』を必ず記入するようにお願いします。 ※屋外用指定運動靴は、指定のシューズケースに入れ、靴箱にしまうこと。 ・体育館やグラウンドへの移動を早めに済ませ、始業チャイムまでに整列して待機して下さい。 ・「わかった!、できた!」を目指した授業を展開します。運動技能の得意・不得意に関わらず意欲を持って臨んで下さい。 ◎提出物について ・『授業課題』をタブレットを活用して配布します。課題の指示を確認し、提出期限を守ることを大切にして下さい。 ・「思考・判断・表現」の評価対象になります。 ◎定期考査について ・実施しません。その代わりに授業内で運動技能テスト（スキルテスト）及び運動への理解度テスト（ペーパーテスト）を実施します。 ◎カーリングについて ・わからないみどりスポーツパークで2回実施します。詳しくはガイダンスを実施します。 ◎体育理論の実施時期は、単元の進行状況によって変更する場合があります。										

教 科		保健体育	科目	保健	学年	2	単位数	1	必修	
使用教科書		現代高等保健体育（大修館書店）								
使用副教材		現代高等保健体育ノート（大修館書店）								
科目の目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		個人及び社会生活における健康・安全についての知識を身に付け、その役割について理解できているか。			健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、筋道を立てて他者に表現できているか。			自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもち、実生活と結びつけて総合的に捉えようとする態度が身についているか。		
評価の算出		・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・授業参加状況 ・提出物の内容 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	3	オリエンテーション(1) ライフステージと健康(2)				○	○	○	・観察による評価
	5	3	思春期と健康(2) 性意識と性行動の選択(1)				○	○	○	・観察による評価
	6	4	妊娠・出産と健康(2) 避妊法と人工妊娠中絶(2)				○	○	○	・観察による評価
	7	2	結婚生活と健康(1) 中高年期と健康(1)				○	○	○	・観察による評価
	8	2	働くことと健康(1) 労働災害と健康(1)				○	○	○	・観察による評価
	9	4	健康的な職業生活(2) 前期期末考査・返却(2)				○	○	○	・定期考査 ・ノート提出
後 期	10	4	大気汚染と健康（1） 水質汚濁・土壌汚染と健康（2） 環境と健康にかかわる対策(1)				○	○	○	・観察による評価
	11	4	ごみの処理と上下水道の整備(1) 食品の安全性(2) 食品衛生にかかわる活動（1）				○	○	○	・観察による評価
	12	3	保健サービスとその活用(1) 医療サービスとその活用(1) 医薬品の制度とその活用(1)				○	○	○	・観察による評価
	1	2	医薬品の制度とその活用(1) さまざまな保健活動や社会的対策(1)				○	○	○	・観察による評価
	2	2	後期期末考査・返却(2)				○	○	○	・定期考査 ・ノート提出
	3	2	高等学校保健についてのまとめ(1)				○	○	○	・観察による評価
合計		35								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
◎授業の受け方 ・教科書/ノート/タブレットを用意してください。 ・基本的知識を理解して課題解決するために、積極的に発言したり、グループ活動に参加することが大切です。 ・形態は一斉、グループ学習、ペアワーク、実験など様々です。ねらいを理解して取り組みましょう。 ◎定期考査について ・前期期末考査と後期期末考査で実施します。出題範囲が広がりますので計画的に家庭学習に取り組んで下さい。 ◎ノート提出について ・各期考査に合わせて、学習ノートの提出があります。コツコツ取り組みましょう。										

教 科	芸術	科目	音楽Ⅱ	年次	2	単位数	2	選択		
使用教科書	MOUSA2（教育芸術社）									
使用副教材	なし									
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、社会や生活の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 ②自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 ③主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。									
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱・器楽・創作などで表している。			音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととのかかわりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。			音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			
評価の算出	授業中の様子や提出記録物の内容、実技、小テストの実施に加え、単元ごとに設定される目標をどれだけ達成しようとしているかという観点で評価を付けます。									
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③	
前 期	4	1	オリエンテーション						授業での取り組みの様子、実技テストでの演奏、発表会の態度、鑑賞の際の記入シートや小テストなどから成績を付けます。	
		2	【楽典】音楽Ⅰで学習した復習			◎	○	○		
		3	【歌唱】日本歌曲・イタリア歌曲			◎	○	○		
	5 6	10	【器楽・創作】 箏			◎	○	○		
		7	10	【器楽】ギター			◎	○		○
			8	2	【鑑賞】音とイメージ			○		◎
9	10	【器楽・鑑賞】リコーダーアンサンブル			◎	○	○			
後 期	10	12	【器楽・鑑賞】ピアノ（独奏・連弾）							
	11					◎	○	○		
	12	2	【歌唱・鑑賞】季節の歌							
	1	6	【器楽】トーンチャイム			◎	○	○		
	2	4	【歌唱】合唱							
		2	【鑑賞】舞台音楽			○	◎	○		
	3	6	【器楽】選択楽器							
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
音楽が得意でも苦手でも、真剣に取り組む姿勢が大切です。一生懸命に取り組んでください。										

教 科		芸術		科目	美術Ⅱ		年次	2	単位数	2	選択	
使用教科書		美術2（光村図書出版）										
使用副教材		絵の具、スケッチブック等										
科目の目標		美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する。										
評価の観点		① 知識・技能				② 思考・判断・表現				③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるかどうか。				造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるかどうか。				主体的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいるかどうか。また、美術を愛好する心情・感性、美術文化への親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度が養われているかなど。		
評価の算出		授業中の様子、各種提出物、完成作品より、まず単元毎に設定された目標をどの程度達成しているかで観点別評価（A～C）をつけます。その後、観点別評価を元に前期・後期毎に評価（1～5）をつけ、年度末に最終的な科目としての前後期統合した評定（1～5）を算出します。										
年 間 の 学 習 計 画										評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容					①	②	③		
前 期	4	1	オリエンテーション 1年間の学習について確認をおこないます。							○	各単元毎に目標が描かれた授業計画表を提示します。原則、その目標を評価の観点毎にどの程度達成できたかでA～Cをつけていきます。 【知識・技能】 主に提出された作品、練習課題から評価します。 【思考・判断・表現】 主に提出された作品、鑑賞文の他、制作途中のアイディアスケッチや振り返り・自己評価に書かれたことも参考に評価します。 【主体的に学習に取り組む態度】 主に普段の授業中の様子や、宿題・その他提出物の取り組み具合から評価します。提出物の締め切りを守れているかどうかもちこに含まれます。	
	4	18	デザインイラスト展へ出品する作品制作 自ら主題を決定し、					○	○	○		
	6		意図に沿った表現や技法を取捨選択して制作します。									
	7	9	テキスタイルデザイン(機織り) 使う場面や目的に沿ったデザインや材料を考え、					○	○	○		
	9		オリジナルの布を織ります。									
後 期	9	18	ストップモーションによるアニメーション制作 アニメーションの原理を学び、アニメーションならではの					○	○	○		
	12		表現や技法を意識した制作を行います。									
	12	12	金属加工による作品制作（ペーパー鋳型） 鋳型の基礎を学び、金属の特性や鋳型として無理のない					○	○	○		
	1		デザインを考えながら制作します。									
	2	12	自画像鑑賞と自画像コラージュ どんな人物かが伝わるよう、技法や素材を工夫して自画像の					○	○	○		
期	3		制作を行います。また、それに伴って有名な画家の自画像を 何点か鑑賞し、どのような人物だったか考えてみましょう。									
	合計	70										
学 習 方 法 ・ そ の 他												
○学習方法 2年生は1年生の頃の学習内容を応用したり、難易度の高い制作が多いです。資料集めや素材の準備など計画的に制作しましょう。作品はすべて提出してもらいます。欠席した際の補習は放課後に行います(自己申告制)。作品は単元の最終日までに必ず提出してください。 チャイムと同時に授業を始めます。机・イス、道具の準備は休み時間に済ませましょう。 ○その他 絵の具など、量が少なくなった物は各自で補充しておきましょう。 配布したプリントを保管するクリアファイルは各自で用意して下さい。 イラストボードやペーパー鋳型セット代として教材費がかかります。												

教 科		芸術	科目	書道Ⅱ	年次	2	単位数	2	選択	
使用教科書		書Ⅱ（教育図書）								
使用副教材		なし								
科目の目標		書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけている。			書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。			感性を高め、書の伝統と文化と豊かに関わり、書の幅広い活動に主体的に取り組もうとしている。		
評価の算出		授業中の様子、各種提出物、完成作品より、まず単元毎に設定された目標をどの程度達成しているかで観点別評価（A～C）をつけます。その後、観点別評価を元に前期・後期毎に評価（1～5）をつけ、年度末に最終的な科目としての前後期統合した評定（1～5）を算出します。								
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	4	・オリエンテーション				◎	○	◎	各単元毎に目標を提示します。原則、その目標を評価の観点毎にどの程度達成できたかでA～Cをつけていきます。 【知識・技能】 主に提出された作品により評価します。 【思考・判断・表現】 主に提出された作品、鑑賞文・振り返り・自己評価により評価します。 【主体的に学習に取り組む態度】 主に普段の授業中の様子や、その他提出物の取り組み具合から評価します。提出物の締め切りを守れているかどうかここに含まれます。
	5	12	○漢字の書…多彩な書（祭姪文稿・温泉銘） 全道学校書道展出品				◎	○	○	
	6									
	7	12	○漢字の書…選択古典（展覧会出品に向けて） 半切臨書：書の甲子園出品				○	◎	○	
	8	4	○漢字(隸書)の書…選択古典				○	◎	○	
	9	8	○漢字の書・・・立体表現				◎	○	○	
後 期	10									
	11	10	○仮名の書・・・三色紙				◎	○	○	
	12	10	○漢字仮名交じりの書…自分の言葉を書表現 全国学生書道展出品				○	○	◎	
	1	6	○漢字仮名交じりの書…誰かの言葉で書表現				○	○	◎	
	2									
	3	4	○創作の書…心情に合わせた書表現				○	○	◎	
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
【授業での約束事】 ・ 集中して書く時は集中して書く、他人と交流する時は精一杯やる。メリハリをつけて授業に臨みましょう。 ・ 授業開始のチャイムと同時に授業を始めるので、それまでに準備を完了させておくこと。 毛氈、墨池、文鎮、筆、用紙、教科書等、その他必要であればその都度指示を出します。 ・ 用具は大切に扱い、特に筆・硯はきれいに洗いましょう。										

教 科		外国語		科目	英語コミュニケーションⅠ		学年	2		単位数	3		必修	
使用教科書		FLEX① ENGLISH COMMUNICATION												
使用副教材		FLEX① ENGLISH COMMUNICATION SECOND EDITION 予習＆授業ノート e-Learning(ICT教材)												
科目の目標		Can-Doリストに基づく。												
評価の観点		① 知識・技能				② 思考・判断・表現				③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価の趣旨		・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めようとしている。 ・実際に英語を用いた言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけようとしている。				・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成しようとしている。 ・言語の使用場面や言語の働きの中からふさわしいものを取り上げ、有機的に組み合わせて活用しようとしている。				・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。				
評価の算出		・定期考査 ・単元テスト				・パフォーマンステスト ・思考・判断テスト				・単元テスト（ワーク） ・パフォーマンステスト ・課題提出 ・振り返り ・授業態度				
年 間 の 学 習 計 画											評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容								①	②	③	
前 期	4	1	オリエンテーション								◎	◎	○	単元テスト、考査、パフォーマンステスト 単元テスト、考査、パフォーマンステスト 単元テスト、考査、パフォーマンステスト 単元テスト、考査、パフォーマンステスト 単元テスト、考査、パフォーマンステスト 単元テスト、考査、パフォーマンステスト
		2	Reading Skill 2～3											
	5	6	Lesson 1								◎	◎	○	
		2												
	6	7	Lesson 2								◎	◎	○	
		2	思考・判断テスト											
	7	8	Lesson 3								◎	◎	○	
		3	思考・判断テスト											
	8	2	Lesson 4								◎	◎	○	
		6												
9	2	前期期末考査								◎				
	10	Lesson 5												
後 期	10	11	Lesson 6								◎	◎	○	
		1	思考・判断テスト											
	11	10	Lesson 7								◎	◎	○	
		2												
	12	11	Lesson 8								◎	◎	○	
		1	思考・判断テスト											
	1	6	Lesson 9								◎	◎	○	
		4												
	2	2	後期期末考査								◎			
		4	Lesson 10											
合計		105												
学 習 方 法 ・ そ の 他														
・教科書、ワーク、A4ファイル、タブレットを毎時間準備してください。														
・先生の話聞きメモを取ったりするだけでなく、生徒同士で意見を交わしたりする場面が多くあります。														
・英語技能の中の5つの領域（R：読むこと、L：聴くこと、W：書くこと、SI：対話や会話、SP：発表）を総合的に伸ばすことを目指します。														
・12月には商業英語検定3級を全員受験します。合格を目指して頑張りましょう。														
積極的に英語を使う場面を楽しみながら学習しましょう。														

教 科	商業	科目	ビジネスコミュニケーション	学年	2・3	単位数	2	選択	
使用教科書	ビジネスコミュニケーション								
使用副教材	令和7年度版 全国商業高等学校協会主催 ビジネス計算実務検定 模擬試験問題集 1級（実教出版） 令和7年度版 全国商業高等学校協会主催 ビジネス計算実務検定 模擬試験問題集 2級（実教出版）								
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を育成することを目指す。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。			ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。			自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを図る態度を養っている。		
評価の算出	定期考査・検定試験 日々の取り組み			定期考査・検定試験 日々の取り組み			成果物・日々の取り組み		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	6	ガイダンス 1章 ビジネスとコミュニケーション				○	○	成果物・日々の取り組み
	5	6	2章 ビジネスマナー 3章 交際に関するビジネスマナー				○	○	成果物・日々の取り組み 成果物・日々の取り組み
	6	8	検定対策 全商ビジネス計算検定試験 前期中間考査			○	○		検定試験結果 日々の取り組み・成果物
	7	4	4章 接客に関するビジネスマナー				○	○	日々の取り組み・成果物
	8	4	5章 コミュニケーションの役割と思考方法				○	○	日々の取り組み・成果物
	9	8	6章 ビジネスにおけるコミュニケーション 前期期末考査			○	○	○	日々の取り組み・成果物 定期考査
	後 期	10	8	7章 コミュニケーションとビジネススキル				○	○
11		8	8章 企業活動とグローバル化 検定対策 全商ビジネス計算検定試験 後期中間考査			○ ○	○	○	日々の取り組み・成果物 検定試験結果 定期考査
12		6	9章 ビジネスの会話				○	○	日々の取り組み・成果物
1		4	10章 ビジネス文書と電子メール				○	○	日々の取り組み・成果物
2		4	11章 ビジネスにおけるプレゼンテーション 後期期末考査			○ ○	○	○	日々の取り組み・成果物 定期考査
3		4	1年のまとめ			○	○	○	日々の取り組み・成果物
合計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
・1年次に学習した「ビジネス基礎」の発展科目である。 ・本授業は、商業科目の中でも実務を強く意識した内容であり、将来を見据えて履修することが求められる。 ・本授業を通じて、全商ビジネス計算実務検定試験1・2級取得を目標とする。 ・授業で指示をする提出物は、必ず期日までに提出する。 ・学習用具、プリント等の忘れ物は、授業に支障が出るとともに平常評価にも関わるので十分注意すること。									

教 科	商業	科目	マーケティング	学年	2・3	単位数	2	選択	
使用教科書	マーケティング（東京法令出版）								
使用副教材	教科書準拠 商業719 マーケティング ワークブック(東京法令出版) 令和8年度版 全商商業経済検定模擬試験問題集 1・2級 マーケティング（実教出版）								
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を育成することを目指す。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	企業における事例など実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。			マーケティングをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、マーケティングに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、マーケティングに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することができる。			ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、市場調査の実施と情報の分析、製品政策、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策の企画と実施などに責任をもって取り組むことができる。		
評価の算出	定期考査・検定試験 日々の取り組み			定期考査・検定試験 日々の取り組み			日々の取り組み		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	6	ガイダンス						日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 定期考査 日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 定期考査
	5	6	第1章 現代市場とマーケティング			○	○	○	
	6	8	第2章 消費者行動			○	○	○	
	7	4	第3章 市場調査			○	○	○	
	8	4	第4章 製品製作			○	○	○	
	9	8	第4章 製品製作			○	○	○	
			前期末考査			○	○		
後 期	10	8	第5章 価格政策			○	○	○	日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 定期考査 日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 定期考査 日々の取り組み・成果物
	11	8	第6章 チャネル政策			○	○	○	
	12	6	第7章 プロモーション政策			○	○	○	
	1	4	検定対策			○		○	
	2	4	全商商業経済検定			○	○		
	3	4	後期末考査			○	○		
			1年間のまとめ			○	○	○	
合計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
・ 1年次に学習した「ビジネス基礎」の発展科目である。 ・ 本授業を通じて、全商商業経済検定試験2級（マーケティング）取得を一目標とする。 ・ 授業で指示をする提出物は、必ず期日までに提出する。 ・ 学習用具、プリント等の忘れ物は、授業に支障が出るとともに平常評価にも関わるので十分注意すること。									

教 科		商業	科目	財務会計Ⅰ	学年	2	単位数	3	必修		
使用教科書		新財務会計Ⅰ 新訂版（実教出版）									
使用副教材		令和8年度版 全商簿記実務検定 模擬試験問題集 2級(実教出版)									
科目の目標		財務諸表の作成に関する知識と技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させるとともに、会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけた。			いろいろな処理法や記帳法、財務諸表の作成方法について、自ら思考を深め、その成果を適切に表現することができる。			基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理することができる。			
評価の算出		定期考査・検定試験 日々の取り組み			定期考査・検定試験 日々の取り組み			日々の取り組み			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	9	ガイダンス 第1編 財務会計の基礎				○		○	日々の取り組み・成果物	
	5	9	第2編 貸借対照表				○		○	日々の取り組み・成果物	
	6	12	第2編 貸借対照表 前期中間考査				○	○	○	日々の取り組み・成果物 定期考査	
	7	6	第2編 貸借対照表				○		○	日々の取り組み・成果物	
	8	6	第3編 損益計算書				○		○	日々の取り組み・成果物	
	9	12	第3編 損益計算書 前期期末考査				○ ○	○	○	日々の取り組み・成果物 定期考査	
後 期	10	12	第3編 損益計算書				○		○	日々の取り組み・成果物	
	11	12	第3編 損益計算書 後期中間考査				○ ○	○	○	日々の取り組み・成果物 定期考査	
	12	9	第4編 財務諸表の活用					○	○	日々の取り組み・成果物	
	1	6	検定対策 全商簿記実務検定				○ ○	○	○	日々の取り組み・成果物 検定試験	
	2	6	後期期末考査 日商簿記検定試験				○ ○	○	○	定期考査 検定試験	
	3	6	1年間のまとめ				○	○	○	日々の取り組み・成果物	
	合計		105								
	学 習 方 法 ・ そ の 他										
・ 1年次に学習した簿記の発展科目である。 ・ 普段の授業を大切に。復習をこまめにする。 ・ 本授業では、全商簿記実務検定試験2級・日商簿記検定2級取得を一目標とする。 ・ 授業で指示をする提出物は、必ず期日までに提出する。 ・ 学習用具、プリント等の忘れ物は、授業に支障が出るとともに成績にも関わるので十分注意する。											

教 科		商業	科目	原価計算	学年	2	単位数	3	選択	
使用教科書		原価計算 新訂版（実教出版）								
使用副教材		反復式 学習と検定 簿記問題集 全商1級 改訂版原価計算（実教出版） 令和8年度版 全商簿記実務検定模擬試験問題集 1級原価計算（実教出版）								
科目の目標		製造業における原価計算及び会計処理に関する知識と技術を習得させ、原価の概念について理解させるとともに、原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を育てる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		原価計算と工業簿記に関心を持ち、習得を目指して意欲的に取り組む態度を身につけた。			各種の原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて、自ら思考を深め、適切に判断し、表現する能力を身につけている。			製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、得られる情報を的確に処理することができる。		
評価の算出		定期考査・検定試験 章末テスト			定期考査・検定試験 章末テスト			日々の取り組み		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	9	ガイダンス 第1編 原価計算の基礎				○	○	○	日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 <

教 科		商業	科目	ソフトウェア活用	学年	2	単位数	3	選択	
使用教科書		ソフトウェア活用（実教出版）								
使用副教材		全商 情報処理検定試験模擬問題集 2級 ビジネス情報編 2026(東京法令) 学習と検定 全商情報処理検定テキスト 2級ビジネス情報部門 三訂版（実教出版） 令和8年度版全商ビジネス文書実務検定 模擬試験問題集 2級（実教出版）								
科目の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。			企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
評価の算出		定期考査・検定試験 日々の取り組み			定期考査・検定試験 日々の取り組み			日々の取り組み		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	9	ガイダンス 企業活動とソフトウェアの活用				○	○	○	日々の取り組み 日々の取り組み・成果物
	5	9	情報通信ネットワークの活用				○	○	○	日々の取り組み・成果物
	6	12	表計算ソフトウェアの活用 前期中間考査				○	○	○	日々の取り組み・成果物 定期考査
	7	6	表計算ソフトウェアの活用				○		○	日々の取り組み・成果物
	8	6	データベースソフトウェアの活用				○		○	日々の取り組み・成果物
	9	12	データベースソフトウェアの活用 前期期末考査				○	○	○	日々の取り組み・成果物 定期考査
後 期	10	12	検定対策				○		○	日々の取り組み・成果物
	11	12	検定対策 全商ビジネス文書実務検定試験 後期中間考査				○	○	○	検定試験 定期考査
	12	9	業務処理用ソフトウェアの活用 情報システムの開発				○	○	○	日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物
	1	6	検定対策 全商情報処理検定試験				○		○	検定試験
	2	6	情報システムの開発 後期期末考査				○	○	○	日々の取り組み・成果物 定期考査
	3	6	1年のまとめ				○	○	○	日々の取り組み・成果物
合計		105								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
・ 1 年次に学習した「情報処理」の発展科目である。 ・ 普段の授業を大切に。復習をこまめにする。 ・ 本授業では、全商情報処理検定試験 2 級ビジネス情報部門及び全商ビジネス文書実務検定 2 級取得を目標とする。 ・ 授業で指示をする提出物は、必ず期日までに提出する。 ・ プログラミング室で授業を行うため、パソコンその他情報機器の破損等の無いう取り扱いに十分留意すること。 ・ 学習用具、プリント等の忘れ物は、授業に支障が出るとともに平常評価にも関わるので十分注意する。										

教 科		商業		科目	プログラミング		学年	2		単位数	3		選択	
使用教科書		最新プログラミング オブジェクト指向プログラミング(実教出版)												
使用副教材		Javaプログラミング能力認定試験3級過去問題集（サーティファイ）												
科目の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。												
評価の観点		① 知識・技能				② 思考・判断・表現				③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価の趣旨		プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとしている。				企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。				企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。				
評価の算出		定期考査・検定試験 日々の取り組み				定期考査・検定試験 日々の取り組み				日々の取り組み				
年 間 の 学 習 計 画										評価の重点			評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容							①	②	③		
前 期	4	9	情報システムとプログラミング							○	○	○	日々の取り組み・成果物	
	5	9	アルゴリズム								○	○	日々の取り組み・成果物	
	6	12	前期中間考査							○	○		定期考査	
	7	6	プログラムと情報システムの開発								○	○	日々の取り組み・成果物	
			プログラムと情報システムの開発								○	○	日々の取り組み・成果物	
	8	6	情報システムの開発演習							○	○	○	日々の取り組み・成果物	
9	12	前期期末考査							○	○		定期考査		
		情報システムの開発演習							○	○	○	日々の取り組み・成果物		
後 期	10	12	情報システムの開発演習							○	○	○	日々の取り組み・成果物	
	11	12	ハードウェア・ソフトウェア							○	○	○	日々の取り組み・成果物	
			後期中間考査							○	○		定期考査	
	12	9	ハードウェア・ソフトウェア							○	○	○	日々の取り組み・成果物	
	1	6	Javaプログラミング能力認定試験対策							○	○		日々の取り組み・成果物	
			Javaプログラミング能力認定試験							○	○		検定試験	
2	6	アルゴリズムの作成 ・ドローンを使用した実技演習								○	○	日々の取り組み・成果物		
3	6	1年のまとめ							○	○	○	日々の取り組み・成果物		
合計		105												
学 習 方 法 ・ そ の 他														
プログラミングの学習を通じて、想像力を培い論理的思考力を伸長することが本授業の目的です。単にプログラミングの知識技術を身に付ければよし、という考えはせず、あくまでもその思考やアルゴリズムなどを意識して授業を受けることが大切です。 また、この授業は3年次選択「プログラミング研究」履修のための基礎科目となります。次年度さらに高度な学習を続けるためにも柔軟な発想力と豊かな想像力、数学的な思考力など、総合力を高めていくよう心がけて履修してください。														

教 科	商 業	科 目	ビジネスコンピューティング	学 年	2	単位数	2	選 択	
使用教科書	なし								
使用副教材	全国商業高等学校協会主催 令和8年度版 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 3級								
科目の目標	企業において必要とされるＩＣＴに係る知識・技術を習得することで社会人としての実践力を高めるとともに、実社会における情報化の実態を学ぶことで、自ら果たすべき役割を理解しつつ進路意識の向上を図る。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	各種ソフトウェアの活用技術が身についており、指示された業務に活用することが出来る			職場での活用について考え、またより良い資料作成について工夫できている			自らの将来を見据え、進路意識を持って授業に取り組んでいる		
評価の算出	単元テスト 定期考査 実技試験 検定試験			単元テスト 定期考査 実技試験 検定試験			日々の取り組み 提出物		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	7	○企業における情報の実体化 ・現代社会におけるＩＣＴ技術の重要性 ・各種職業におけるＩＣＴ技術の活用状況			◎	○	◎	日々の取り組み・単元テスト
	5	7	○ワープロおよびＤＴＰソフトの利用 ・コンピュータ操作に関する基本的技術とタイピングの基礎			◎	○	◎	
	6	7	・Wordを利用した文書作成の基本 ・Publisherを利用したより訴求力のあるドキュメントの作成						検定試験 日々の取り組み・単元テスト
	7	5	○全商ビジネス文書実務検定3級 受験			◎	◎	○	
	8	5	○表計算ソフトの活用 ・Excelの基礎 ・関数の利用			◎	◎	○	
			9	7	・関数ネストについて ・グラフやオブジェクトの挿入について				
	1	○前期期末考査			◎	◎	○	定期考査	
後 期	10	7	○表計算ソフトの応用 ・資料の作成について			◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト
	11	7	・より効率的な資料作成について						
	12	5	○データベースの基礎 ・データベースの仕組みとSQL			◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト
	1	3	○全商情報処理検定3級 受験 ・Accessの基礎			◎	◎	○	
	2	5	・新規データベースの作成実習						定期考査 成果物
	3	4	○後期期末考査 ○課題制作			◎	◎	◎	
合 計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
・実習が中心となるため、技術的な修練を怠らないようにすることが重要。 ・定期考査はもとより、章末テストの結果なども評価対象とする。 ・ビジネス文書および情報処理検定取得を目標とするため、それに対する取り組みも評価対象とする。 ・コンピュータの利用にあたっては、規則や注意を遵守し大切に使用すること。									